

1. 評価結果概要表

作成日 21年10月7日

【評価実施概要】

事業所番号	1871700272
法人名	医療法人社団 茜会
事業所名	あかねの里
所在地	坂井市丸岡町羽崎31-11-3 (電話) 0776-67-6581

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成21年7月24日	評価確定日	平成21年10月7日

(情報提供票より) (21年7月9日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 10 人、非常勤 5 人、常勤換算 7.0 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	4 階建ての	2 ~ 3 階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,640 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	470 円
	夕食	350 円	おやつ	0 円
	または1日当たり			円

(4)利用者の概要

利用者数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3	要介護2	7		
要介護3	4	要介護4	4		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 85.8 歳	最低 77 歳	最高 93 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	藤田神経内科病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、福井市内から国道8号線を北上し福井大橋を渡った坂井市の閑静な住宅地のなかにある。九頭竜川を背にした敷地の中に医療施設・老人保健施設と併設している。8年前に利用者の家族からの要望で立ち上げた坂井市初のグループホームで、1階はデイサービス、2～3階がグループホームとなっている。

「入居者が住みなれた地域の家庭的な環境の中で、ゆっくり、いっしょに、たのしく、ゆたかに地域の慣習を共有しながら日常生活を継続していくこと」というホーム独自の理念のもと、全職員で入居者を支える取り組みを行っている。管理者と職員は認知症について十分に理解しており、重要事項に「看取り指針」を盛り込み、開設当初から運営母体の医療機関の協力を得ながら看取りに組んでいる。また、土曜日と日曜日に通所介護のサービスにも取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)	前回の外部評価で指摘のあった入浴の時間帯について職員全員で検討した結果、一日を通して入居者の希望に合わせた利用ができるような支援に改善している。災害対策への地域の働きかけについては、協力を得られるところまでは至っていないので、引き続き積極的な取り組みを期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	管理者・職員共に外部評価の意義を十分に理解しており、自己評価を職員一人ひとりが行い、さらに全職員で項目ごとに話し合い改善策にも目を向け、より利用者本位のサービス提供を目指している。また、外部評価結果を真摯に受け止め、ホームの質の向上に取り組もうとする姿勢がうかがえた。
重点項目	運営推進会議のおもな討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)	運営推進会議は、2か月に1回定期的に行われ、入居者・入居者家族・民生委員・婦人会長・運営母体理事長・管理者・職員等が参加し、ホームの運営状況や職員の異動などを報告した後、参加者との意見交換を行っている。委員から日頃の様子等を職員に質問したり、カンファレンスのもち方について検討するなど、各委員が積極的に参加している。また、理事長から認知症に関する説明なども行われている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法、運営への反映(関連項目:外部7、8)	家族からの苦情対応については、重要事項説明書に苦情相談窓口の記載とホーム内に苦情対応相談窓口を掲示し受け付けている。苦情についてはできるだけ早急に対応するとともにホーム内だけで留めず法人全体で対処し、記録にも残り再発防止に努めている。また、年2回運営推進会議の日に合わせ家族会を開催し、率直な意見が聞けるようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	入居者と職員は日々の買い物・散歩・外出時に地域住民と挨拶を交わし、馴染みの関係を築いている。また、月1回、近隣の寺へ法話を聞きに出かけたり、幼稚園児と交流したり、公民館行事等にも参加し地域交流を図っている。

2. 評価結果（詳細）

■は、重点項目。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		理念に基づく運営 1 理念の共有			
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者一人ひとりが最後まで自分の自立(生きる)を求め家庭的な環境の中でゆったり、いっしょに、たのしく、ゆたかに地域の慣習を共有しながら日常生活を継続していくことをモットーにした事業所独自の理念を掲示している。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	週1回のミーティング時に理念の周知徹底がなされている。職員はお互いに気づいたことを確認しあい、理念に基づいたサービスの提供を心がけている。		
		2 地域との支えあい			
■	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は自治会に加入している。入居者と職員は、日々の買物や散歩時などに地域住民と挨拶を交わしたり、また、入居者と職員が近隣の幼稚園を訪問したり、ホームの芋堀に園児を招待したり、公民館の行事に参加するなど、可能な限り地域住民との交流に努めている。		
		3 理念を実践するための制度の理解と活用			
■	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が外部評価の意義を十分に理解しており、自己評価は各自が行った後、全職員で項目ごとに検討している。評価結果の改善点については改善策を職員全員で話し合い、目標に掲げサービスに反映させている。		
■	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3か月に1回から2か月に1回の開催に改善されている。会議では、ホームの運営状況や職員の異動などを報告した後、参加者との意見交換を行っている。委員から日頃の様子等を職員に質問したり、カンファレンスのもち方について検討するなど、各委員が積極的に参加している。また、理事長から認知症に関する説明なども行われている。		
■	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	普段は質問があれば市の担当者に問い合わせる程度だが、年2回運営推進会議に参加してもらっている。地域包括支援センターにも参加を呼びかけているが、参加には至っていない。		引き続き、地域包括支援センターにも呼びかけ、参加されることを期待したい。
		4 理念を実践するための体制			
■	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に入居者の生活状況や金銭管理を報告している。また、入居者の状況に変化があった時には随時電話での報告も行っている。その他、入居者の日頃の様子・行事・お知らせ・外出時のスナップ写真等を掲載した「あかねの里便り」を2か月1回発行している。		
■	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの要望や苦情・相談等は、面会時・家族会・運営推進会議の機会に直接聞くようにしており、職員は気軽に話せるよう雰囲気づくりに努めている。意見や苦情については、ホームだけでなく法人全体で検討した後、迅速に対応し、家族に報告している。また、記録にも残し、再発防止に努めている。		
■	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規の採用や法人内での異動があるが、職員の異動による入居者への影響を緩和するため、通常は1か月、最短でも2週間かけて新旧の職員が引継ぎを行なっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5 人材の育成と支援			
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修体制は充実しており、内部・外部研修を問わず勤務扱いで参加できる。外部研修には、職員の経験や目標に応じた内容の研修に参加するようにし、参加した職員は月1回の会議の中で報告し全職員が共有するようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	坂井広域ネットワークの管理者会議やグループホーム連絡協議会等の機会を通じ、同業者と交流している。また、福井市内のグループホームとは、利用者や職員と一緒に訪問交流を行っている。		
		安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人・家族にホームを見学してもらったり、宿泊体験を通じて、ホームの雰囲気や入居者・職員との触れ合いを感じてもらい、少しでも入居時の不安を和らげる取り組みをしている。また、希望があれば、入居初日に家族が宿泊することもできる。		
		2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の流れの中で食事や洗濯、掃除、畑仕事等を入居者と職員と一緒に楽しむ関係を築いている。職員は、入居者が活躍できる場を意識的に準備する配慮にも努めている。		
		その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握			
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの思いは、本人の言葉だけでなく、家族からの情報や本人の表情・行動からもできる限り把握するように努めている。		
		2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式からの情報、本人や家族の意向、職員からの情報等を踏まえて、本人本位の介護計画の作成に努めている。 今後は、家族にもカンファレンスに出席してもらい、さらに本人本位の計画になるよう研鑽していきたいと考えている。		家族のカンファレンスへの参加が実り、より入居者本位の介護計画が作成されることを期待したい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しは3か月に1回としているが、週1回のショートカンファレンス、月1回のカンファレンス等で計画にズレがないか確認し協議することで、定期的見直しの土台とし、次の介護計画に活かせるようにしている。早急な対応が必要な場合は、随時見直しを行っている。		
		3 多機能性を活かした柔軟な支援			
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営母体のデイサービスから車を借りて外出したり、退去時の荷物運びなども行っている。また、土・日曜には、通所介護の利用者も受け入れている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族からの希望があれば本人の了解を得た上で、併設している病院での受診に移行している。受診後、状況に変化がない時は家族への報告はしていない。 1名の入居者はかかりつけ医での受診を継続しているが、家族が同行している。		受診時に特に変化がなければ家族への報告はしていないが、併設の病院とホームとの連携だけでなく、家族との情報の共有も大切にされるよう期待したい。
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明の中で医療との連携体制を謳っており、重度化した場合の対応を入居時に詳細に説明し、看取りについても「看取り指針」を提示し、それぞれ家族の意思確認をしている。 そのうえで、家族・医師・看護師・職員が情報を共有し、方針を確認しあいながら支援している。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者一人ひとりに合った声掛けや支援をし、自尊心やプライバシーを損ねないようにしている。居室への出入りも必ず本人の了解を得ている。個人情報や書類については厳重に取り扱われ、個人データが入っているパソコンにはロックがかけられている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	読経や八ビロ・嚙下体操を日々の日課としているが、無理強いはずせず、一日を通して入居者に合わせゆっくり・楽しくの理念をモットーにした取り組みを行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お好みの献立の日を設けたり好みの出前を取るなど、工夫した取り組みが行われている。検食の職員と一緒に食事を取っていたが、会話があまりなく食事を楽しむ雰囲気は見られなかった。		入居者にとって食事が楽しめるような雰囲気づくりも期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一日を通して入居者の希望時間に沿うように改善されている。入浴時もプライバシーに配慮した見守りや手助けなど、本人の希望や状態に応じた支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族からの情報や本人の意欲、職員の働きかけなどで、食事の準備・掃除・洗濯・畑仕事等、一人ひとりの出来ることを分担することで、入居者の楽しみに繋がっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週2回の買い物、行事への参加、近隣のグループホームへの訪問交流等の他、1日に1回は併設施設周辺の散歩や菜園の収穫等に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せずに人感センサーを使用しており、夜間時は施錠している。入居者・家族が自由に出入りできるため、外出しそうな入居者には車椅子や杖などにリボンを付け見守っているが、1階のデイサービスにも協力を依頼し、待合室に居たらホームに連絡してもらおうなど、安全に配慮した連携を取っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は、隣接する母体施設と合同で消防署の協力・指導の下、年2回実施している。緊急時の職員連絡網や消火器・非常時の備品・食料等も完備されている。昨年の改善点であった地域住民の協力については、呼びかけているところである。		地域住民への協力は引き続き呼びかけ、災害時に応援してもらえるような体制の構築を期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分確保については、本人の状況に応じた個別の支援を行っている。夜間は、ベッドの横に水を準備し、自由に補給できるような配慮がなされている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたリビングには食卓用テーブルが置かれており、同じ空間には和室もあり仏間として利用している。廊下も十分な広さが有り等間隔でベンチが配置され、入居者が思い思いに過ごせる空間となっている。ベランダにはすだれが掛けられており、涼感を漂わせていた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使われていた愛用のタンスやテレビ・布団等の馴染みの品々が配置され、入居者が安心して生活している様子が感じ取れた。		

自己評価票

は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念である		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	館内に掲示し、週1回のミーティングに周知、実践するよう指導		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	外出、買い物、催しの参加を通じて理解を図っている		家族会、運営推進会議で、地域への浸透を議題としてあげる
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	買い物、散歩時に挨拶を交わす		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事の招待を受け参加したり、幼保園との交流、神社参り等で交流を図っている		
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	日曜日の通所を行なっている		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	実施の意義を理解し、評価で指摘されたことについては改善目標としている		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	意見を大切にし、サービス向上につなげている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	質問事項があれば問い合わせている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修で学び、家族会、運営推進会議においてビデオなどで説明している		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	注意をはらっている		新人職員に高齢者虐待防止関連法を学んでもらう
4 理念を实践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明に努めている		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員に直接話すことが多いが、運営推進会議の参加、家族からの連絡で利用者の意見を聞くことができ、即対応している		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問時にカルテを読んでもらう おたより紙発行(2ヶ月に1回) 小遣い帳での報告		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付の外部機関ポスターを掲示、家族会、運営推進会議、法人内に設置してある投書箱などで対応 意見を討議し即実行している		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度意見、提案を聞き、週1回のミーティングに話し合いを行い意見を反映		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務の調整を行い、業務の流れを話し合いで変更している		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	影響を考え、ベテランと新人職員の配置など考慮している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に参加を募り、外部研修には職員の段階や目標に応じて参加を勧めている		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットw - クに参加し、発表や研修を行なっている		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人や互助会で忘年会、小旅行、歓迎会などおこなっている		外部機関によるメンタルケアを考える
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修を進めたり、個人の年間目標や自己評価をして、向上心につなげている		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入居時の家族情報や本人の求めていることをセンター方式を利用して理解し対応するようにしている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	ケアプラン作成前後などに、家族と細かい部分まで話し合いを持つようにしている		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ショートカンファレンスなどで新しい課題として取り上げ対応し、解決に努めている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前の体験入居や見学、必要な方には入居当日の家族の宿泊を勧めている		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	戦前、戦後の経験を話してもらうことで学んだり、調理、洗濯、掃除、畑仕事の共同作業で共に過ごし支えあう関係を作っている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加してもらったり、特に看取りにおいては、家族に利用者への思いが届くような配慮に努めている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の希望、本人の希望の調整につとめている。 家族との外出、外泊、宿泊を自由にしている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の自由な訪問、自宅への外出の付添い、馴染みの場所への外出に努めている		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	外出は、気の合う利用者同士になるよう配慮し、作業等は助けあいながら出来るよう配慮している		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	併設に入院や入所の場合は、利用者と共に見舞いなどをしている		他の施設に入所した時のかかわりを検討する
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室(フローリング、畳)、食事内容、入浴、買い物など本人の希望にそよう検討している		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のセンター方式の「暮らしの情報シート」を活用している		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送り、カルテ確認、ショートカンファ、ケアプランの作成時に職員で話し合い共通理解が出来るよう努めている		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	実施している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとのケアプラン作成と毎月のショートカンファでケアプランの見直しをおこなっている		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録し、共有している		様子の記録を増やしていきたい
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の病院、リハビリ、デイケア、老健施設があり、状況に応じて対応また、通所を受け入れている		
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア、幼保園、地域の祭りなど参加や交流をしている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			本人の意向や家族の意向があれば、他のサービスを支援する
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、必要性がないので、実施していない		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を支援している		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	支援している		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設病院の担当の看護師が、相談や訪問を行なっている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時に訪問し、様子観察及び情報交換をする必要に応じて家族と話し合う		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	事前指定書を作成し、家族、医師、看護師、職員が確認しながら方針を共有している		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	「看取りの指針」「事前指定書」をもとに、家族と、事業所が出来ることの理解を共有し、医師、看護師、職員でともに支援している		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	退去時には詳細な情報提供を行なっている		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>		<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	訪室の際にはノック、声かけをし、基本的には本人に了解をもらってから入るようにしている		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	ゆっくりとした話合いの中で、本人の思い、希望を聞き、本人の選択を優先している		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	その日、その時々本人にあわせた対応、支援をしている		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	理容、美容は本人の希望に 添い、衣類に関しても本人の希望を聞きながら行なっている		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	お好み献立の日をもっている (2/週) 好みの出前をとる 共同での食事作り、後片付けを行なっている		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	タバコ以外は、自由に楽しめるように本人と買い物に行き購入したり、おやつに提供したりしている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ケアプランによるトイレ誘導 オムツ使用に関しては、個々に無駄がないように対応している		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前中の希望があれば午前中に 毎日入浴可能なので本人の希望にそっている		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	1日の生活リズム作りを通して安眠につなげる工夫をしている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	特に決めていないが、自然に役割等ができていて 声かけをして本人の思いにそっている		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支払いは本人が行なう 小遣い帳をもっている		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1日1回は玄関から出るように工夫している		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食、花見、イベント参加、など季節ごとに機会をつくっている		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解のもと支援している		手紙のやり取りが出来るように支援したい
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室でゆっくり話せるように支援		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夕6時から朝9時以外は鍵をかけていない		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	玄関チャイムがなったら確認に行っている 共有場所のチェック 物音がしたとき本人の様子を確認する		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険性のないものを替わりに置く		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止、おきたときの対策を法人内勉強会またカンファレンス時に学ぶようにしている		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルがあり、併設病院とも連携をとっている 法人内の職員研修に組み込まれている		全職員が備えを理解するように取り組む
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人内で年2回、ホーム内で月1回の避難訓練		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ヒヤリハットの報告、今後おこりうることも伝えている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	変化や異変にたいして、看護師に伝え、また、職員間の連絡、家族への連絡をしている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報、個人処方箋の確認に努めている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	理解しており、排便チェックや、センナ茶、寒天みぞ汁、バナナのおやつ等食品に配慮している		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に行なっている 入れ歯洗浄をしている		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個人に対応している 水分補給は、おやつ時、入浴後に好みのものを提供 夜間は、ペットボトルにお茶を入れベッドサイドに置いている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人に院内感染委員会があり、各種マニュアルがあり指導を受け実行している		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、ハイター消毒をし布巾や手拭は、日に3回交換 食材は、日に使い切る料を購入している		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは、花等をかざり、時にスリッパの交換を行なう 建物周囲は、花壇などの工夫をしている		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファ、畳、椅子の配置の工夫やすだれ、コタツを使用し季節感に配慮。又 お経をあげる場がある		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のフロアと、洗濯干し場の近くに畳を一郭設置しており、利用している		畳の部屋を利用する方が少なくなったので、利用方法を考える
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットの配置、馴染みの物を家より持ってきてもらうなど工夫している		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	1日の中でこまめに対応している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、肘つき椅子、居室前のトイレ、夜間はポータブルトイレを置くなどしている、		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	行動パターンを把握し、援助が後手にならないようにしている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダでの食事や花の水遣り畑では、花や野菜を育てている		
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

併設病院があるので、日中、夜間をどうして医療面で安心できる点と利用者の思いにそったレクリエーション、野外活動(外出、外食、畑仕事等)に努めている。

自己評価票

は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念である		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	館内に掲示し、週1回のミーティングに周知、実践するよう指導		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	外出、買い物、催しの参加を通じて理解を図っている		家族会、運営推進会議で、地域への浸透を議題としてあげる
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	買い物、散歩時に挨拶を交わす		隣近所との交流を深めるためにどうするかを運営推進会議で取り上げ、つきあいができるよう努める
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事の招待を受け参加したり、幼保園との交流、神社参り等で交流を図っている		
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組んでいない		話し合い取り組んでいきたい
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	実施の意義を理解し、評価で指摘されたことについては改善目標としている		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	意見を大切に、サービス向上につなげている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	質問事項があれば問い合わせしている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修で学び、家族会、運営推進会議においてビデオなどで説明している		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	注意をはらっている		新人職員に高齢者虐待防止関連法を学んでもらう
4 理念を实践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明に努めている		さらに、理解、納得に努める
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員に直接話すことが多いが、運営推進会議の参加、家族からの連絡で利用者の意見を聞くことができ、即対応している		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問時にカルテを読んでもらっている おたより紙発行(2ヶ月に1回) 小遣い帳での報告 電話での報告		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付の外部機関ポスターを掲示、家族会、運営推進会議、法人内に設置してある投書箱などで対応 意見を討議し即実行している		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度意見、提案を聞き、週1回のミーティングに話し合いを行い意見を反映		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務の調整を行い、業務の流れを話し合いで変更している		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	影響を考え、ベテランと新人職員の配置など考慮している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に参加を募り、外部研修には職員の段階や目標に応じて参加を勧めている		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークに参加し、発表や研修を行なっている		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人や互助会で忘年会、小旅行、歓迎会などおこなっている		外部機関によるメンタルケアを考える
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修を進めたり、個人の年間目標や自己評価をして、向上心につなげている		さらに、すすめていく
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	その都度話を聞くようにしている 趣味の話しや家族のことを聞く時間を持つよう努めている		男性は積極的に話さないで、男性職員との時間を多く持つようにする
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	面会時、話を聞くよう努力している		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	レベルの確認をし、家族と連絡をとりながら対応している		本人の希望を見逃さないために話の時間を多くとるようにしたい
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前の体験入居や見学、必要な方には入居当日の家族の宿泊を勧めている		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	戦前、戦後の経験を話してもらうことで学んだり、調理、洗濯、掃除、畑仕事の共同作業で共に過し支えあう関係を作っている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に生活状況を伝え、衣類や金銭(小遣い)などの相談をしている、		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の希望、本人の希望の調整につとめている。 家族との外出、外泊、宿泊を自由にしている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の自由な訪問、自宅への外出の付添い、馴染みの場所への外出に努めている		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	外出は、気の合う利用者同士になるよう配慮し、作業等は助けあいながら出来るよう配慮している 週2回2階と3階の合同レクリエーションを行ない、話し合える場をもっている		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	併設に入院や入所の場合は、利用者と共に見舞いなどをしている		他の施設に入所した時のかかわりを検討する
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室(フローリング、畳)、食事内容、入浴、買い物など本人の希望にそよう検討している		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用して、聞き取りをおこなっている		生活情報をさらに多く集めたい
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送り、カルテ確認、ショートカンファ、ケアプランの作成時に職員で話し合い現状の把握が出来るよう努めている		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意見などを聞きカンファレンスで話し合う ショートカンファで対応し、職員同士情報の統一をはかっている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとのケアプラン作成と毎月のショートカンファでケアプランの見直しをおこなっている		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録し、情報を共有している		様子の記録を増やしていきたい
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の病院、リハビリ、デイ케어、老健施設があり、状況に応じて対応また、通所を受け入れている		
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア、幼保園、地域の祭りなど参加や交流をしている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			本人の意向や家族の意向があれば、他のサービスを支援する
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、協働していない		意向や必要性があれば協働する
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を支援している		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	支援している		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設病院の担当の看護師が、相談や訪問を行ない支援している		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時に訪問し、様子観察及び情報交換をする必要に応じて家族と話し合う		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	事前指定書を作成し、家族、医師、看護師、職員が確認しながら方針を共有している		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	「看取りの指針」「事前指定書」をもとに、家族と、事業所が出来ることの理解を共有し、医師、看護師、職員でともに支援している		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	退去時には詳細な情報提供を行なっている		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	訪室の際にはロック、声かけをし、基本的には本人に了解をもらってから入るようにしている 大声で話さないようにしている		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	ゆっくりとした話合いの中で、本人の思い、希望を聞き、本人の選択を優先している		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	その日、その時々本人にあわせた対応、支援をしている		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	理容、美容、衣類に関して、本人の希望を聞きながら行なっている		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	お好み献立の日をもっている (2/週) 好みの外食や出前をとる 共同での食事作り、後片付けを行なっている		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	タバコ以外は、自由に楽しめるように本人と買い物に行き購入したり、おやつに提供したりしている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人にあったトイレ誘導をし、職員同士情報交換をしながら支援している		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前中の希望があれば午前中に毎日入浴可能なので本人の希望にそっている		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	1日の生活リズム作りを通して安眠につなげる工夫をしている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	特に決めていないが、自然に役割等ができていて声かけをして本人の思いにそようになっている		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支払いは本人が行なう小遣い帳をもっている		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1日1回は玄関から出るようにし、外出の希望があればその都度対応している		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食の機会をつくったり、月1回、花見や見学などを計画している		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解のもと支援している		手紙のやり取りが出来るように支援したい
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室でゆっくり話せるように支援		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夕6時から朝9時以外は鍵をかけていない		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	玄関チャイムがなったら確認にし、居場所の把握、時間ごとの安全確認をしている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険性のないものを替わりに置く		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	1人の方が、センサーを利用している 誤薬予防に必ずダブルチェックをしている 食材では刻み食や1口サイズ、ゼリー状などで、対応している		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルがあり、併設病院とも連携をとっている 法人内の職員研修に組み込まれている		全職員が対応できるよう継続していく
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人内で年2回、ホーム内で月1回の避難訓練		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	現状報告と今後起こり得るリスクを話し合っている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	全員確認しており、緊急を要する場合は、速やかに看護師に報告し指示を受け早期発見に努めている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報、個人処方箋の確認に努めている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	理解しており、排便チェックや、センナ茶、寒天みぞ汁、バナナのおやつ等食品に配慮している		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に支援し、自力で出来ない方は、職員がガーゼで口腔内清拭をしている 週2回入れ歯をポリドントで消毒		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個人に対応している 水分補給は、おやつ時、入浴後に好みのものを提供 夜間は、ペットボトルにお茶を入れベッドサイドに置いている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人に院内感染委員会があり、各種マニュアルがあり指導を受け実行している		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、ハイター消毒をし布巾や手拭は、日に3回交換 食材は、日に使い切る料を購入するようにしている		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは、花等をかざり、時にスリッパの交換を行なう 建物周囲は、花壇などの工夫をしている		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファ、畳、椅子の配置の工夫やすだれ、コタツを使用し季節感に配慮。又 お経をあげる場がある		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のフロアと、洗濯干し場の近くに畳を一郭設置しており、利用している		畳の部屋を利用する方が少なくなったので、利用方法を考える
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットの配置、写真、馴染みの物を家より持ってきてもらうなど工夫している		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	1日の中でこまめに対応している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、肘つき椅子、居室前のトイレがあり、夜間はポータブルトイレを居室に置くなどしている、		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入り口に目印のものを飾ったり、トイレに張り紙を貼っている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダでの食事や日光浴、花の水遣り 畑では、花や野菜を育てている		
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

併設病院があるので、日中、夜間をどうして医療面で安心できる点と利用者の思いにそったレクリエーション、野外活動(外出、外食、畑仕事等)に努めている。